

・和田別荘(中山別荘)

竣工日 日新報

昭和七年七月五日



# 大正文化の典型建物

遠藤 健三氏 別府に若い日の思い出

岐阜市新聞の「玲瓏無限の人びと」で連載された岐阜市長良鶴崎屋、大日本土木株式会社遠藤健三氏へが、若いころ現場監督として建てた大正期の洋風木造建築が別府市に現存していた。今では貴重ななったこの種の建物は、いわ

ば大正文化の一つの典型といえるわけである。遠藤氏が現場を訪ねて感激した。

この建物は大正九年五月二十七日、当時の東米利加屋という建築業者が、富士紡績初代社長和田豊治氏の別荘として建てた。その時の現場監督が若き日の遠藤氏であった。

別府市山の手二丁目に現存する建物は、所有者が代わっているがとんがり屋根にベンチロースタイルの米國式木造住宅は昔のまま。一万三千二百平方尺の広大な敷地内には池もあり、野鳥が住む大きな風敷、建坪は延べ百八十坪(五百九十四平方尺)。庭はツツジも多く、芝地には市民に開放して多くの人が咲き誇る花を愛し

調度品もそのままに残っていた別府市の旧和田邸―藤田健三氏

みた訪れた。

いまの豊后屋下がまだお嬢様の時代、久遠宮へ(のちの)皇太子(のちの)陛下とごおられた時代、別府を訪れた際の宿舎になった由緒ある建物でもある。

現在所有者が入って屋根がわりを修繕中で、壁面の修復も行っている。風敷廊下の木造建物が今も残存して、いわが国の初期木造洋館の遺構の「し」と題され、復元補修が始まったと云う。

遠藤氏は「旧」の別荘の奇麗だが、私が訪ねた時は特別に邸内を見せられて感激した。なにしろ、私の青春時代の仕事でもあり、あの頃の仕事を思い出させてくれた思い出がある。この山荘風の建物は私の青春が蘇る場所だ。『す』と題して記した。